



中国新聞社
 広島市中区土橋町7番1号
 〒730-8677 電話(082)236-2111
 ©中国新聞社 1998

でるた

三十数年間にわたる経営者人生を過ごしてきたが、満六十一歳の時、私はある転機を得て身一つとなり経営コンサルタントに転身した。本業の傍ら講演や執筆活動をするうちに「健康生きがいづくりアドバイザー」という民間資格を取得する機会に恵まれた。



吉田 祐起

生きがいづくり

高齢社会で老人医療問題などが深刻化する中、高齢者がいつまでも健康で生きがいを持って晩年人生を送ることができれば、本人をはじめ、国の財政も若者たちの負担も軽減され、万事メテクシだ。そのために寄与できるような、平成四年に誕生した資格。その生み出された仲間が約千八百人、広島の親は「健康・生きがい開発財団」で、くしんも会長は広島県出身の永野健さん。しかも大田晋・現広島市助役は当時の厚生省で、財団創設などの推進役を果たされた。資格取得には通学で延べ十二ヶ月間の研修が必要で、八カ月間の通信制度もある。認定された仲間は全国で約千八百人、広島県内だけで五十余人を数える。一昨年夏に設立された協議会が本年一月、西日本の有志に呼び掛けて研究会を広島市内で開催した。テーマは「もういっぺん人生の輝を咲かしんさい! 小さなこころみ、大きなみのり」。初日は地元で知られる田中節子さんの講演「楽しい老後のために」とパ

「会生にあらず、積極的に世のため、人のために役立つ『厚生と世生』」

でありたい。仲間たちが真摯に熱のこもった研修、協議する姿から、年齢にこだわらない健康づくり、生きがいづくりをめざす「志の高さ」を実感できた。今六十八歳。さあ、これからだ。(ひろしま健康・生きがいづくりアドバイザー 協議会会長 東広島市)